

言語文化講読Ⅱ

科目ナンバリング RES-102
選択 2単位

沖永 荘八

1. 授業の概要(ねらい)

20世紀心理学の指導的役割を果たした、ウィリアム・ジェイムズの『心理学原理』、その第10章「自己の概念」後半部分「純粹自我」以下を英文で読む。デカルトは考える「私」の存在を疑い得ないものと見なしたが、ジェイムズはデカルトと同じ内観的な方法を用いつつも、それが存在するとは言えないという結論を導き出して行く。しかも彼はヒュームのように最初から観念の束として「私」を見なしたのでもなく、「私」と思われる何かに内側から肉薄しながら、それを探求した結果それがどこにも知覚されないという見解に到り、それ以上の結論を形而上学に委ねる。この内観と思考の道筋を丹念にたどる。

2. 授業の到達目標

目指すところは言語文化講読Ⅰと同じ。こうした地道な読解と思考の訓練には、試験に受かるためとか、何かの資格をとるため、といった直接の目的はない。しかし目的がないからこそ、こうした訓練は直接の目標を持ったあらゆる勉学の底力となることを理解して頂きたい。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に訳出を担当することを出席点とする。期末に試験またはレポートを課す予定。

4. 教科書・参考文献

教科書

William James The Principles of Psychology, The Works of William James Harvard University Press

5. 準備学修の内容

授業で扱う英文を予習し、内容を理解した上で和訳できるようにしておくこと。この授業は基本的な読解力と思考力の鍛錬であると考えて、地道に取り組んでいただきたい。

6. その他履修上の注意事項

言語文化講読Ⅰに同じ。文章を熟読し内容を理解することは、あらゆる勉学の基礎になるので、毎回の予習と読解を積み重ねる努力を怠らないこと。積み重ねるほど自分の力になると考えていただきたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 前期で扱った「純粹自我」という概念の、哲学または心理学上の特徴と意義。前期授業の再確認。
- 【第2回】 p.324-325 THE PURE SELF OR INNER PRINCIPLE OF PERSONAL UNITY
- 【第3回】 p.325-326 The Theory of the Soul
- 【第4回】 p.326-327
- 【第5回】 p.327-328
- 【第6回】 p.329-329
- 【第7回】 p.329
- 【第8回】 p.330
- 【第9回】 p.331
- 【第10回】 p.332 The Associationist Theory
- 【第11回】 p.332-333
- 【第12回】 p.333-334
- 【第13回】 p.334-335
- 【第14回】 p.335-336
- 【第15回】 後期セメスターのまとめ。